

対象国保健衛生分野における開発ニーズ(課題)

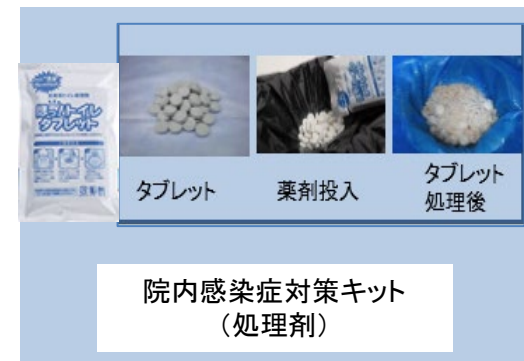
- ・コレラをはじめとする消化器系感染症の流行が頻発している。
- ・資機材の不足により、医療施設において適切な汚物処理が実施されておらず、病院内感染を引き起こすリスクが高い。
- ・保健省は2021/22年度までにコレラによる発生率と死亡率を50%減らすことを目標としている。

提案製品・技術

- ・消石灰等を主な原料とする高性能排泄物処理剤(塊状処理剤)、二酸化塩素錠剤やその他処理に必要な商材をまとめた「感染症対策キット」である。
- ・排泄物処理剤は大腸菌などのエンベロープ細胞に有効。また、二酸化塩素錠剤を併用することで除菌効果を高める。
- ・処理剤は消臭効果、さらには生分解性で環境に配慮した製品である。

本事業の内容

- ・ 契約期間: 2023年4月～2024年5月
- ・ 対象国・地域: ウガンダ国 カンパラ県、ワギソ県、ムコノ県、ジンジャ県、アルア県、ゾンボ県、ネピ県、ブリサ県、マシディ県、ホイマ県、キバレ県
- ・ カウンターパート機関(想定): Mulago国立病院、その他地方中核病院
- ・ 案件概要: 感染症対策キットの現地必要性を調査し、同国で課題となっている感染症リスクの低減と医療施設の効率的な運営管理によるウガンダ国の保健指標の向上への貢献を目指すとともに、ビジネスモデルの策定を行う。



開発ニーズ(課題)へのアプローチ方法(ビジネスモデル)

- ・当面は、日本から「感染症対策キット」を輸出し、現地代理店が販売する。長期的には、現地でのパッケージ化や薬剤製造の可能性も検討する。
- ・販売は、現地販売代理店を通じて行う。
- ・エンドユーザーは、ウガンダ国内の医療機関や国際機関、NGO等を想定。

対象国に対し見込まれる成果(開発効果)

- ・院内感染リスクの低減及び防止。
- ・院内における感染症対策・公衆衛生施設の効率的運営。
- ・院内感染防止に対する医療従事者の意識と知見の向上。